

会山行N0・10		草津	
山名		白根山	
		2160m	
報告者		渡辺 昭二	
セールスポイント		24時間体制無料公衆浴場！	
コース及び タイム	1月3日 (木) 天候(晴～雪)	下土狩10:50～富士I.C11:25～佐久I.C15:50～ 草津18:00～体育館B.C20:50	
走行距離		350 km	
参加者	CL気象	後藤隆徳 (54)	厚化粧の女、躰の悪いた、傲慢な態度。今度行ったら 00してやる!
	装備	長岡浩一 (42)	金もらっても二度と行くか!
	会計食料	加藤秀子 (52)	全国の山スキーの皆様、「草津はクサッとる」です。
		渡辺昭二 (39)	いい山、旅気分。
第一日目	<p>今回のトリップは、当初船形山が予定されていたが、諸事情により変更となる。冬型が強まり、2日から3日にかけて日本海側は大雪が降ると天気予報は告げていた。</p> <p>後藤さんの決断で2日発を3日発とし、行き先が草津となる。</p> <p>富士からは晴天のもと、富士山を拝みながらスムーズに進む。14時頃の豊科辺り、北アルプス上部はガスの中。下部樹林帯も雪化粧。田んぼも真っ白だ。遠く僕たちの進む先上空には、水色の空が希望に満ちて光っている。</p> <p>一堂盛り上がったのもつかの間、更埴ジャンクションから渋滞7km。こんなときも、仲間と一緒にだといいいものだ。</p>		
	<p style="text-align: right;">早くお出になつて〜。</p>		

佐久に着くと雪は止んでいた。どんよりとした雲にあたまを押さえ付けられているようだ。軽井沢駅付近を通り、浅間山を越える。僕はこの頃から風邪の調子も良くなり、ひとつの決断を下しつつあった。年末の過労と家庭内の心配事そして風邪のため、今回はゲレンデでのお茶濁しのつもりであったのだが、やっぱり情け無い。

しかし気掛かりなのは、等高線の間隔。今回もスノーボーディング地獄？（緩斜面のパウダーでは、滑降不可。それこそ立往生。）

そして、延々と走ったような気がする。陽もとつぷりと暮れ、まさに雪国。素泊り3000円の看板を目撃！風邪ひきもいるし3000円なら良いか。と言うことで尋ねるが、予約で一杯。雪の降る中、今宵の宿を探す。それにしても辺り一面硫黄のにおいが充満している。

素泊りの宿も有りそうで無いもので、お腹もすいてきた事だし食事処を探す。某和食処に一堂なだれ込む。こじんまりしたきれいなお店の座敷きに陣取り、後藤さん御所望の室温で保存されたBEER（大抵ここでお店の方と打ち解けたりするのだ）&冷えたBEER、そして熱燗と一気に五臓六腑に染みわたらせる。揚げ物やうどんのうまい店だった。常連客が言うには、冬場1・2月は素泊りの宿はみんな予約で一杯だと。若店主は当たりがやわらかく、奥さんは温泉美人だった。

店から目と鼻の先に有る『煮川の湯』を目指す。雪の積もった道ばたにホーミーを止め、薄暗い公衆浴場へ入る。どうやら町内のおじさん達がいらっしゃるようだ。あいさつをして中へお邪魔する。木の壁。石の浴槽。いいな～。温度は43・4度以上は有りそうなくらい熱め。近所のおじさんに話を聞くと各町内にひとつ浴場が有り、おのおのお金を出し建築し、管理しているそうだ。内湯はあまりなさそうだった。どこの家からでも5分歩けば必ず温泉があるそうだが、雨や雪の日のことを思うと大変でしょうと言うと、5分歩くのが嫌な人なんかいるものかとちょっと御機嫌を損ねてしまった。長く入浴していると身体中ピリピリ、ジンジンしてくる。壁一枚隣の加藤さんに聞くと「ちょうどいいよー」。

テン場を探してホーミーを走らせると、饅頭やさんの呼び込みのおばちゃんに車窓から熱々の温泉饅頭を頂く。明日買いに来るからと言い、頬張る。あんこがうまいぞ。後藤さんのグッドアイデア、体育館を探せ。ということで、人に尋ね、有りました。灯付き、軒下。明日は天気がよさそうだ。いつもの後藤さん持参の敷き毛布のおかげで、皆あたたかくスヤスヤと眠りについた。

2度と行くか

第2日 02年1月4日(金) 長岡浩一

草津白根山と
芳ヶ平ヒュッテ

起床5:00~共同浴場6:50-7:20~草津スキー場7:40~リフト終点発
9:40~白根レストハウス~白根山10:30~山田峠手前のコル10:50
~白根山11:20~芳ヶ平ヒュッテ13:15-13:35~草津スキー場15:45

標高差	△:S	2020m	~T	2160m	≒	140m	体力度	1②3・4・5・6
	▽:T	2160m	~G	1250m	≒	910m	技術度	1②3・4・5・6
走行距離	総合体育館 ~ 草津スキー場				≒	km	展望度	1・2③4・5・6

参加者	後藤隆徳	白根山から滑れて良かった
	加藤秀子	お正月早々、まあまあ皆さん、おさえておさえて。
	渡辺昭二	ライディング不可。次回来るならスキーだ。
	長岡浩一	最高の温泉と最悪の山スキールート。二度と行くか。

予定していた船形山&西吾妻は大寒波のため断念し、変更縮小して、昨日草津へやってきた。午前3時頃目を覚ます。テントの外は小雪で厳しい寒さだが、草津の温泉に入ったせいか寝袋の中はほかほかと暖かく、ほんのりまだ温泉の香がする。また一眠りし、起床の5時を迎える。

食事を済ませ、町民体育館の玄関軒下を、何事も無かったようにして出発。空は快晴に近い。ラッキー。スキー場へ行ってみると、リフトは8時30分迄動かないので、ひとつ風呂浴びに行く。今日は、異(たつみ)の湯という共同浴場(無料)へ入った。昨夜の煮川の湯は名前のごとくとても熱く、ゆっくりできなかつたが、ここはちょうど良い温度だし広い。ゆっくり温まって、出発前の準備運動完了。

リフト1番乗りでゲレンデトップへ向かう。350円のリフト2本と900円のゴンドラ1本を乗り継いだ。ゴンドラを降りると、風が強くて結構寒い。-7度くらいか。シールを貼り、ピーコンのスイッチを入れ、準備しているとつま先が痛くなってきた。少しく雲が広がってきたが天気は良く、たいしたコースでもないの、と言うわけではないが、スキー場様へ届けを出すのをオコタリ、渋峠めざし出発。

始めは、つまらない雪の道路歩きであるが、私は今季初山スキー。嬉しくて、雪をけりシールを滑らせグングン進む。うるさいスキー場を早く離れたい。逢ノ峰をまわり、弓池の駐車場を過ぎて道路を離れ、雪煙あがる白根山めざして尾根をラッセルして登る。風が強くて吹雪状態。顔が痛く、目出帽をかぶる。これだこれ!この風と寒さ、やっと雪山に来れたという感じで、目だけ出してニヤニヤする。尾根を行かず、道路を行っても良いが、昨日までの大雪の後で、白根山西側の急斜面の下のトラバースは万が一雪崩ということも考えられなくは無いらしい、第1につまらない。

白根山頂上付近は、強風で所々地肌が出ている。頂上から北西に伸びる、カチカチにクラストした尾根を下り、山田峠の一つ手前のコルに出る。先程からヘリが近くを飛んでいるが、誰かを探しているのか。(じつは我々を観察?見張り?していた?)ここで、ルートの検討をする。山田峠手前は、東に面した少し急なトラバースで、ふんわり大量の雪がついている。大丈夫と判断したが、もし雪崩たら、先程のうっとうしいヘリのご厄介なるかもしれない。白根山から快適そうではないが、はっきりした尾根が1本、芳ヶ平へ降りている。安全第一。この尾根に決定。それに、渋峠から滑るより、山ヤとしては、ピーク(白根山)から滑りたい。

また白根山まで登り返し、東側の2138mのピークでシールをはずして滑降準備をする。志賀高原の横手山が近い。20年近く前に、スキー場で2冬アルバイトした懐かしい山である。その時も、白根山に2度訪れた。それにしても、ヘリがうるさい。遭難救助なら仕方ないが、迷惑だ。冬山では、風の音と仲間の声だけでいい。

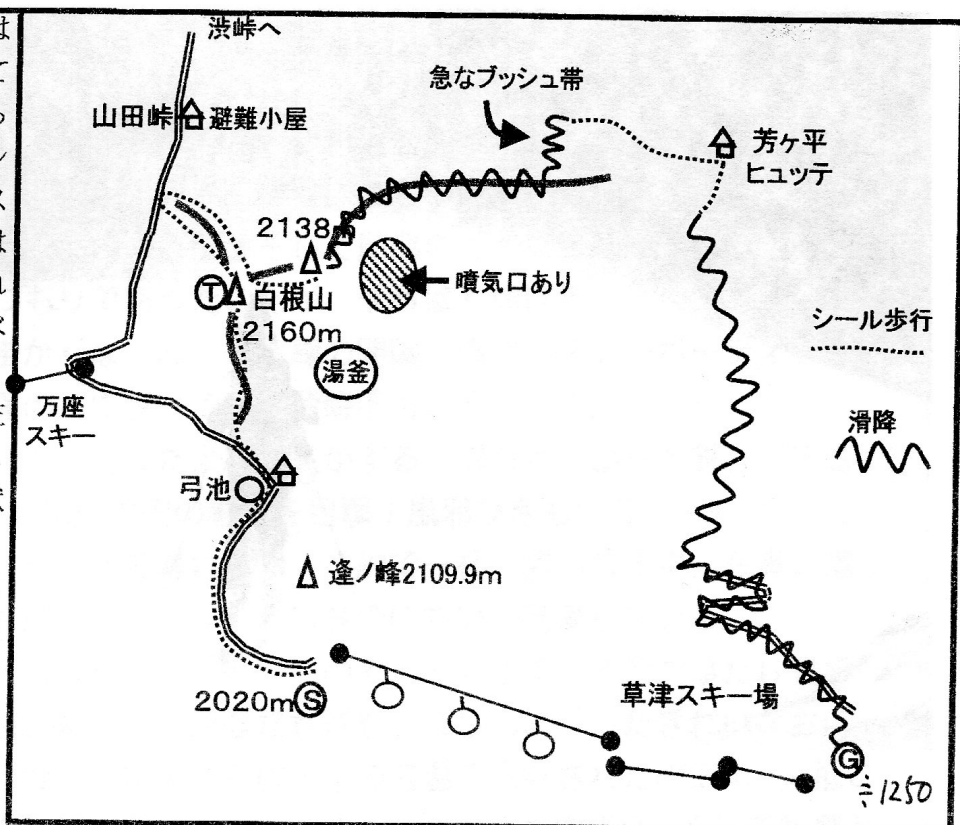
いよいよ、今季初滑り。右下に大きな噴気が上がっている。そちらに行かない様に、尾根に忠実に沿って滑って行く。雪はやわらかく、まあまあ気持ちいい。





しかし、次第に傾斜は緩く、雪は深くなって滑らなくなってしまった。ボーダー昭チャンの苦難の始まりだ。スキーを脱ぐと腰まではまる。ヘリに観察されながら、行動食を食べる。

尾根の末端近くで左へそれ、急なブッシュ帯を下る。やぶこぎ状態で大変な下りだった。下に降りついてスキーを脱いだヒデコさんは、胸まではまり、おぼれそうになって、あわてて板に這い上がった。



足場の良いところでシールを着け、気持ちの良い芳ヶ平の雪原をヒュッテを目指す。

ヒュッテ前では、大騒ぎの2匹の犬と、男3人女1人のお出迎えを受けた。犬のばか騒ぎがおさまったところで、ひとりの男が、「あんた達、届けは出したの?」「いいえ。」「だめじゃない。ヘリが飛んでたでしょ。あんた達を探してたんだよ。」遭難したわけじゃなし、意味不明なことを言われたが、スキー場に届けを出さなかった落ち度があるので、何も言えなかった。どうやら、ヘリはスキー場のパトロールのヘリで（ヘリスキーにも使う）、ヒュッテとは無線で連絡を取り合っているようだ。さらに、「下からずっと見ていたけど、あんなとこ滑って来る人いないよ。雪崩が起きることもあるし。」ヘリからも、ヒュッテからも観察されていたようだ。では我々がとったルートに問題はあるのか。少しの危険も避け、忠実に尾根を来た。皆さんどう思われるでしょう。ヒュッテにお邪魔しコーヒーを頼んだが、お金を払って出るまで、横柄でいやな対応を受けた。犬はうるさいし、街のレストランの方がよっぽど気が休まる。ここの方々は、無断で山に入り、決められたコース以外（危険は無くとも）を滑る輩には、鬼の首取ったかのように責めまくって、快感を得る嫌な奴ら（時々いるでしょ）のようだ。「すみませんでした。」と言っているのだから、後は気持ちよく接しても良いではないか。

シールを着けたままヒュッテを出発。肩を落として黙って歩く。右へルートを大きくはずし、少し高度を上げてから、滑り始める。正規のルートに合流すると、傾斜が緩く、全くつまらないコースである。昭チャンはシール歩行で下って行く。最後は長い林道をスキーをこいで終わった。本当につまらないコースであった。ヒュッテも行く価値は無く、私は自分の持つルート図集からこのコースを抹消した。スキー場のパトロールに頭をさげに行き、雪が降り始めたスキー場を後にする。

身軽になって車に乗り込む頃には本降りになってきた。明日予定していた、湯の丸山は不可能なようだ。高いお金と、貴重なお休みを使ってきているのだから、少し気晴らしをしなければ。





今朝入った巽の湯へまた入り、汗と不愉快を流そうと長湯する。草津良いところなのにな〜。少しサッパリしたところで、ここから近い、昨晚寄った『みやたや』さんへまたお邪魔した。このご主人は、とても人当たりが柔らかく、奥様もとても若くて色っぽく（たまらない）、非常に感じがいい。人の楽しみを必要以上にぶち壊す芳ヶ平の寂しい心の人達とは雲泥の差だ。それにこの料理はおいしい。特に、透き通ったタコはうまかった。しこたま飲んで、今宵の宿である草津体育館の玄関軒下へ帰った。

翌朝、予想通り大雪。テントの中で、最後に土鍋で豪勢な鍋をした。満腹でまた巽の湯に入り、大雪の浅間越えをして帰静した。

反省

①スキー場へ届を出すことは良いことだ。しかし、スキー場のない登山口もあり、またコースの難易度

にもより、絶対というものではない。今度こういうことがあったら、ひるまず、言うべきことは言って

対応してあげよう。

②GPSの練習をしようと位置入力していったが、ちゃんと入っていなかった。

勉強が必要。

③共同浴場には、石鹸持参。

ヘリコプタとは驚きました。やり過ぎですね。

草津では私も同じようないやな経験が2度あります。

1度目は逢の峰→芳ヶ平→草津と温泉から日帰りツアーしたとき。

芳ヶ平近くで休憩、振り返ると2人滑ってくる。他にパーティがいるなど話していたらこれがパトロールだった。計画書を出さずにゲレンデ外へでるなどおこられました。

2度目は横手から草津に向かったとき、逢の峰下のドライブインまでパトロールがスノーモービルできてゲレンデからでるなど注意された。

このときは横手の小屋に計画書を出していました。

いずれも高圧的でやな感じでした。

全国的にみてもスキーツアーに対し最悪のスキー場ではないかな。

富岡 進

0559-87-5396

s.tomioka@thn.ne.jp



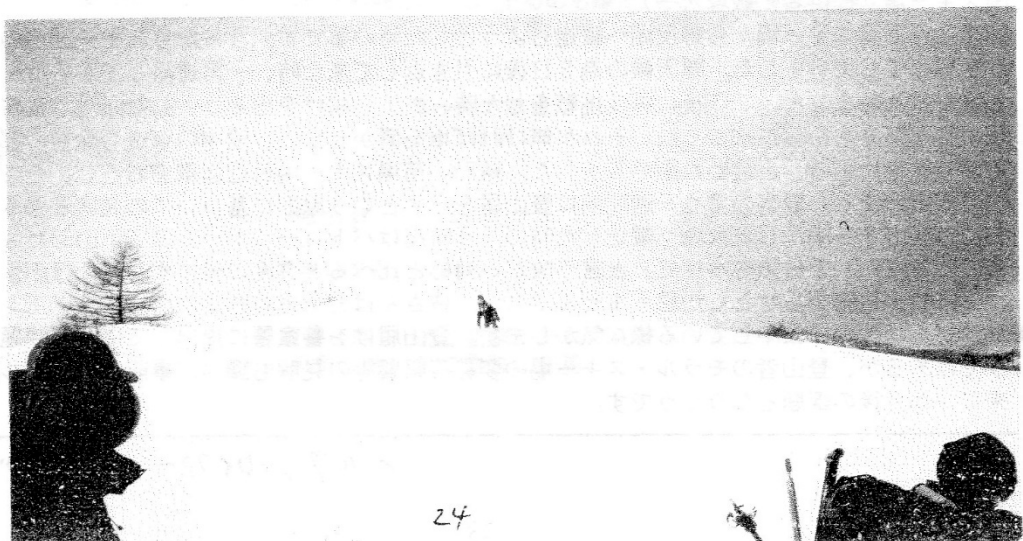
山名	山スキー・草津（最終日）	報告者	加藤秀子
1月5日（土） コース及び タイム	起床 5:00/6:30⇒温泉入浴⇒佐久経由⇒中央高速・須玉IC⇒南甲府IC⇒精進湖道路⇒雪道スリップ渋滞の為引き返しR52号線で迂回⇒芝川⇒富士宮⇒富士IC⇒下土狩		
参加者	①タカノリ ②コーイチ ③ショージ ④ヒデコ		

目覚めてテント越しに外をのぞくと、昨夜から予想していた通りの本降りの雪であった。湯の丸山は断念し、ゆっくり朝風呂に入ってから帰る事に決定。そうと決まれば腰を据えて朝食の段取りだ。昨夜外食をした為、手つかずになった「きりたんぼ鍋」を用意する。グツグツ湯気をあげる鍋をつつきながら朝から熱燗をグイッ。俄然話が弾む。昨日のヘリから山小屋の対応の悪さにおよび、言いながら段々と興奮してくるのか顔を紅潮させ『これでいいのか。山小屋は・・・』と口角泡を飛ばせて喧々囂々。

ゆっくりとした朝食を過ごした後テントを撤収。二晩庇を借りた体育館の玄関を後にして、町の温泉に直行。朝一番の降りしきる雪では人も居ない。手足を思いっきり伸ばし湯船にゆったりと浸かると体の疲れもふっ飛び、エネルギーが満ちあふれてくるのを感じる。昨日樹林帯の深い急斜面の下りで『もぉー。イヤッ!』、と言う程苦労して懲りたような気がしたのに、単純だなぁー。一晩過ぎて疲れがとれると又山に登りたいと思うんだから。お産と同じだ。イオウの湯気をたっぷり身体に吸い込んで、思い切り良く風呂から上がった。

外は相変わらずの雪である。凍った雪道を、雪景色を楽しみながら慎重に車を運転する。帰りは佐久経由だ。野辺山から清里迄は、凄く突風が吹きまくり視界も無いほど。さすが八ヶ岳と納得。精進湖道路に入るまでは車も順調で快適に走る。それからが大変だった。雪道でスリップしている車で大渋滞。この時期チェーンも持たずノーマルタイヤで精進湖越えするなんてとても考えられない。中腹で渋滞に嵌まった車は完全に止まったままだった。

CLが我慢できず、車から飛び出し交通整理を始めた。そして僅かに開いた間隔の中でUターンし富士川沿いのR52号線へと迂回する。雪もなく空いた道路は軽快で順調に富士着。本当にお・つ・か・れ・様でした。



※ この件

ご意見をお待ちします。メールにて。

コラム 2

スキー場でのトラブル

みつ俣神楽スキー場（提供者：高瀬恒夫）

パトロールが山スキーヤーを規制していて困った。

みつ俣神楽スキー場（提供者：牧野総治郎）

元々新雪の宝庫だったのに最近はコース外をロープで規制、あえて滑るとパトロールに退場しろと言われる。何処のスキー場も新雪の滑れる場所をコース外として囲い込み、滑らせない様にしているがポスター等では新雪を雪煙を挙げて滑る写真を使って宣伝しており納得がいかない。

みつ俣神楽スキー場（提供者：松本英正）

神楽峰へ行く時、別パーティーが文句を言われていた。リフト券を取り上げたりしている。（事故等を危惧している為なのかな？）

みつ俣神楽スキー場（提供者：板垣望）

ちょっとでもコースを外れるとパトロールがとんでくる。少し神経質過ぎるような気がした。

田代スキー場（提供者：大門正明）

降りて来るのが遅くなり無人になったゲレンデをロープウェイに急いでいたら、パトロールがスノーモービルでとんできて「今頃何やっているんだ」と文句を言われた。山という自然を利用させてもらって営業しているのだという謙虚さが全く感じられず、私有地に無断で進入したという態度だった。

田代スキー場（提供者：牧野総治郎）

ベルクシーロイファーにも書いたが、昨年苗場山から棒沢を滑降し田代スキー場を經由して神楽スキー場に戻ろうとしたら、連絡リストが止まっておりシールで歩いて行こうとしたところ、パトロールにコース閉鎖になっているかと強引に阻止された。

関温泉（提供者：中島敏行）

最終リフトからスノーボーを背負って歩き始めたらパトロールに登山中止を勧告された。（無視したが）

草津スキー場（提供者：板垣望）

白根からの帰りが少し遅くなったら、同行者（あまりスキーがうまくない）が半ば強制的にスノーモービルに乗せて下ろされた。ちょっと世話のやきすぎ？

東頸城キューピットバレー（提供者：中田良一）

スキー場Mから菱八ヶ岳に行った時パトロール員の制止を無視。山頂からスキー場に滑り込む時間迄「しっかり」待っていた。私を見るなり「ここはスキー場ですから・・・」といやみを言われた。信用されていないらしくしばらくパトロールに付きまとわれた。

アライスキー場（提供者：後藤正弘）

このエリアへの山スキーヤー排除でトラブル多数。現在スキー場と話し合いを持っている。

三国スキー場（提供者：飯塚宏一）

88年3月三国スキー場から野反湖へ縦走しようとした時の事です。うっかりスキー場への入山届けを忘れてしまいました。悪天候の為3日後に引き返して来た時、一言連絡してから行ってくださいと強く言われました。2年後に再度挑戦をした時、ツアー届けを出そうとしたら「六日町の営林署の許可証をもらって来てくれ。それが無ければ車を置かせない。途中の車道も除雪の邪魔になるので駐車は困る」と言われ困惑しました。結局、苗場スキー場付近迄車をおろし、そこから歩いて入山しました警察の言う一週間前に登山届を出すという原則に基づいての発言と思うが、以前に万座スキー場から野反湖へ縦走した時の「9時迄はパトロールがいるので下山したら必ず報告して下さい。十分気をつけて」と言う暖かい対応と比べると雲泥の差です。私には山岳スキーヤーに対する嫌がらせとしか思えませんでした。皆さんはどう思われますか。

★トラブルは新潟に集中している様な気がします。登山届けを警察署に提出していれば問題ないようではあるが、登山者のモラル・スキー場の姿勢等県警等の見解も調べ、事前にトラブル回避出来ないか今後の課題となりそうです。

